



来年1月から、大鹿村民の入館料が無料になります！

中央構造線博物館では、今まで以上に地域の皆様に活用していただくため、2016年1月より、大鹿村に住民票のある方は無料で入館できるようになります。年明けは1月6日（水）から開館いたします。どうぞお気軽にお越しください！

※年末年始の休館日：2015年12月28日（月）～2016年1月5日（火）

西方見聞録「世界はこんなふうだった」

第1回 ネパール（1987～90）編

大鹿村 塩河在住の伊東一郎さんが1987年から90年にかけてネパール滞在中に撮影した写真を上映します。インド国境低地帯からヒマラヤ山脈に至る、極めて変化に富んだ地形とそこに住む多様な人々の素朴な暮らしぶりや文化など、当時のネパールの様子を写真とご自身の解説で紹介いたします。

第1話（2016年1月10日）カトマンズ盆地、ランタン渓谷、エベレスト街道

第2話（1月24日）アンナプルナ外周、カリガンダキ川流域

第3話（2月7日）アンナプルナ内院、ヒマラヤ遊覧飛行、中部山間地帯、
カンチェンジュンガ地域

第4話（2月21日）タライ平野、ダウリギリ山群

● 上記、隔週日曜日 14：00～16：00 場所：大鹿村中央構造線博物館 学習室

● 入場無料・申し込み不要

主催：大鹿村中央構造線博物館（Tel. 0265-39-2205）

大鹿小学校・中学校の授業を博物館で実施

大鹿小学校6年 理科 大地のつくりと変化「地層のでき方」

11月13日(金)、大鹿小学校6年生の理科学習として野外観察や博物館見学、実験を行いました。

最初に小学校と博物館の間を流れる小渋川を観察しました。河原の石は砂岩や泥岩が多く、流されてくる途中で角が取れ、丸くなっています。今は水がなくても、泥の上に流れた跡があることや、れきや砂といった大きさにより、たまりやすい場所が異なる様子を見ることができました。

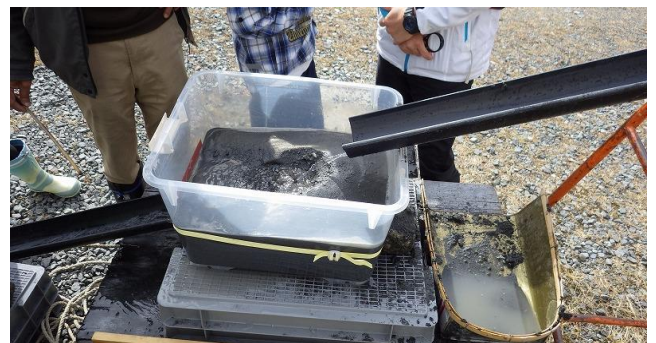
博物館では館内見学と実験を行いました。常設展示である岩石標本や地形模型のほか、今回は特別に小学校建設時の地盤調査のボーリングコアを観察しました。ボーリングの結果、小学校の地下は河原と同じれきや砂であることがわかりました。昔は谷だった場所を小渋川のれきや砂が埋め、今の大河原の平地ができています。小学校も小渋川が埋めてできた平地に建っています。

実験は博物館の裏で行いました。博物館では2週間ほど前から準備を進め、試行錯誤を繰り返しながら、手作りの実験装置を組み上げました。

初めに堆積の実験を行いました。傾けた雨樋に河原の砂や泥を載せ、上から水を流し、透明な容器にためていきます。重いれきほど早く沈み、その上に細かい砂、泥という順番で積もっていきます。これを繰り返すことで地層ができ、容器の横から観察しました。

この容器の側面には穴が開けられており、堆積の実験をしてから栓をぬくことで、川による侵食・運搬の実験も行いました。水がぬけて行く勢いで土砂が削られ、川の流れによってつくられる地形を確認することができました。

今回の野外観察や実験を通し、自分が住む地域の地質・地形に興味を持ってもらえたようで良かったです。また、中学校では安康露頭の観察をするので、学んだことを生かしてもらえれば幸いです。(榊原)



堆積実験の様子

大鹿中学校1年 理科学習「中央構造線 安康露頭の観察」

11月16日(月)、大鹿中学校の理科学習として、安康露頭の観察と博物館見学を実施しました。

安康露頭では河原の岩石や断層粘土を観察し、露頭の様子をスケッチしました。下流の天然記念物の範囲外では実験も行いました。チャートと石灰岩という、見た目はどちらも白い2種類の石に対し、釘で傷がつくか、酸性の洗剤に反応するか、2通りの実験で違いを確かめました。チャートは放散虫という微生物の殻が堆積したもので、とても硬いため釘では傷つかず、酸性の洗剤とは反応しません。一方、石灰岩はサンゴなどの死骸が堆積したもので、傷がつきやすく、洗剤をかけると泡(二酸化炭素)を出しながらとけました。

最後は博物館で地形・地質模型を用いて訪れた場所を確認し、学んだことを復習しました。

生徒の感想では「中央構造線の大切さがわかり、大事にしていきたい」という言葉があり、とても嬉しく思いました。今後も恒例行事として、中央構造線学習を継続していきます。(榊原)



安康露頭の観察